

ROTARY CLUB  
ITOIGAWA



2025～2026年度

R I テーマ よいことのために手を取りあおう

地区運営方針 ロータリーで善の循環を

糸魚川RCテーマ みんなでよい活動しよう



週報

糸魚川



2025.12.4  
第3059例会

No.21

◆会 長 赤星賢二 ◆クラブ会報雑誌 長谷川淳一  
◆例 会 場 ヒスイ王国館 糸魚川市大町1-7-11 TEL.025-553-1210  
◆例 会 日 毎週木曜日 12:30～13:30  
◆創 立 1960年9月10日 ◆承認 1960年10月12日  
◆事 務 局 新潟県糸魚川市寺町 糸魚川商工会議所内 TEL.025-552-1225  
◆糸魚川RC HP <https://www.itoigawa-rc.jp/>  
◆第2560地区HP <https://www.rid2560niigata.jp/>

### ●本日のプログラム●

- ・点 鐘
- ・国 歌 君が代
- ・四つのテスト
- ・会 歌 奉仕の理想
- ・会長挨拶
- ・幹事報告
- ・委員会報告
- ・親睦委員(結婚記念日・誕生日祝)  
ニコニコ箱担当委員  
その他委員会
- ・卓話  
imotion株式会社 代表取締役  
山中 聡史様  
「採用活動をブランディング」
- ・点 鐘

### 本日のお客様

imotion株式会社 代表取締役 山中 聡史様

### 次回例会プログラム

◇12月11日(木) 親睦事業「忘年会」

### 出席報告

◆11月27日(木) 26名

### 親睦委員会

◇12月誕生日(4名)

3日 中林友幸君 11日 伊井浩太君  
20日 松澤永元君 22日 永野雅美君

◇12月結婚記念日(5名)

1日 猪又史博君、鈴木修一郎君、永野雅美君  
8日 後藤幸洋君 12日 中林友幸君

### 幹事報告

◇11月27日(木)第6回定例理事会がヒスイ王国館にて開催されました。

#### 議題

1. 12月のプログラムについて
2. 夜間移動例会「合同新年会」について
3. 年次総会について
4. 25-26年度下期会費について
5. 会長指名委員会報告について
6. 富山年度グループ公式訪問について
7. 糸魚川タイムス年始広告掲載について
8. 会員増強について
9. その他

◇親睦事業「忘年会」開催案内(例会兼ねる)

日 時 12月11日(木) 18:30～  
会 場 膳処くろひめ  
会 費 4,000円

※昼の例会はありません。

◇親睦事業「合同新年会」開催案内(例会兼ねる)

日 時 1月15日(木)  
会 場 笹倉温泉 龍雲荘 18:30～  
会 費 4,000円

※昼の例会はありません。

### ◆中央RCコーナー

12月5日(金) 年次総会

## ニコニコ箱 11月27日 \*\*\*\*\*

赤星 賢二君 両沢監督、大悟さん、本日は遠方よりお越しいただきありがとうございます。卓話、楽しみにしております。

樋口 浩君 今日は息子の話を聞いていただきありがとうございます。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

渡邊 博君 誕生日祝いをいただきまして、ありがとうございます。樋口様、両沢様、新作映画楽しみにしております。

\*\*\*\*\*

### ◆個人寄付 11月27日 (3名 9,000円)

| 氏 名    | スマイル  | R財団   | 米山財団  |
|--------|-------|-------|-------|
| 赤星 賢二君 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 樋口 浩君  | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 渡邊 博君  | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 合 計    | 3,000 | 3,000 | 3,000 |

## 11月27日の卓話 \*\*\*\*\*

### ゲスト卓話

株式会社リ・ボーン117

代表 樋口 大悟様

「ふるさとへ還る時

～相馬御風を訪ねて～」



この冬、相馬御風をテーマにした映画を撮ることになりました。

きっかけは、前作『みんな生きている』の公演や上映で糸魚川を訪れていた際、市の方から「相馬御風を題材に映画を作ってみてはどうか」とお声がけいただいたことでした。そこから糸魚川市の協賛のもと、今年の春頃から本格的に企画が動き始めています。

僕自身、糸魚川で育ったのですが、正直なところ、相馬御風については“校歌を作った偉いおじいちゃん”という程度のイメージしかありませんでした。今回の撮影を機に御風について改めて調べるようになり、著書『還元録』に出会いました。

御風は34歳の頃、「今の自分は本来の自分ではないのではないか」と深く思い悩み、東京から糸魚川へ帰郷したといえます。その生き方を知り、糸魚川にとって本当に大切な人物なのだと実感すると同時に、御風への親しみも強くなっていました。

この映画を通して、糸魚川の皆さまをはじめ全国の方々に相馬御風という人物の魅力を知っていただきたい。その思いで、現在撮影に取り組んでいます。

## 監督 両沢和幸様より



樋口君とは前作『みんな生きている』でも一緒に映画を撮りました。彼の白血病という個人的な体験をもとにした作品で、骨髄移植のドナーが暮らしているという設定から、糸魚川市で撮影を行いました。この撮影をきっかけに、私自身も糸魚川に通う機会が増えていきました。

その頃、「相馬御風を題材に映画を作ってみないか」とお誘いをいただきました。地方の偉人や名士をテーマにした映画はこれまでも数多く作られていますが、どうしても興味を持つ人が限られてしまうという課題があります。実際、御風について関係者の方にお話を伺う中でも、「だんだんと忘れられてきている」という声が少なくありませんでした。若い世代が関心を持たなければ文化は継承されません。

そこで私は、「現代に蘇った御風と、今の若者が語り合う物語はどうか」と提案しました。

私が御風のことを調べ、特に心を動かされたのはその生き方です。糸魚川から東京へ出て早稲田で教鞭をとり、『早稲田文学』の編集長も務め、当時は新進気鋭の論客・文学者として活躍していました。しかし34歳のとき、一大決心をして地位や名誉を捨て、糸魚川へ戻ってきます。

当時、御風自身だけでなく、妻や子どもたちも精神的に疲れきっていたといえます。しかし糸魚川の自然の中で暮らすうちに、家族全員が少しずつ元気を取り戻していきました。御風が糸魚川へ戻るという決断には、家族を想う強い気持ちも込められていたのだろうと感じます。

帰郷後も、「また東京に戻ってこないか」という誘いは多くあったそうです。けれど御風は、恩師の葬儀を除いて一度も東京へ戻ることなく、糸魚川で生涯を終えました。その潔い生き方に深く心を動かされ、私はますます御風の人生に惹かれていきました。

今の若者もまた、進路や働き方、人生の選択に迷い、悩むことが多い時代です。御風が抱えた葛藤や決断は、きっと現代の若い人たちにも通じる部分があるのではないかと考えてようになりました。

この映画を通して、若い世代が御風に興味を持ち、彼の文学への入り口にそっと足を踏み入れてくれる、そんな作品にしたいと願っています。

